

心が元気になってから 多様な学びの選択肢を一緒に見つけてみよう



インクルーシブ教育研究者・博士（障害科学） 野口晃菜

今回のてこぼこポン！のテーマは「学校に行かないときの居場所の発明品」です。

学校に行くことがつらい様子のぼこすけ。でこりんから「学校行きなよ」と言われ、学校に行ってみますが…帰ってくるなり泣き出してしまいます。学校にいけない自分を責めているぼこすけに、ポンは「心がつらい時は学校を休んでいいんだよ」と声を掛けます。ぼこすけのように、学校に行くことがつらいと感じている子どもはたくさんいます。その背景にある理由は様々です。本人も理由がわからない場合もあります。「行かなきゃならないけれど、行けない」ことがさらに本人を追い詰めてしまうことも少なくありません。学校がつらくて行くことができないとき、まずはポンが伝えたように、**本人が安心して休むことができるような関わり、本人の心を元気づけるための関わり**をすることが大切です。心が回復しないと、自分がどうしたいか？を考えたり伝えたりすることも難しいのです。

その後、ぼこすけはゆっくり休んで、心は元気になってきて、友達と一緒に勉強したり、遊んだりしたい、と思うようになりましたが、まだ学校に行く自信がありません。そんなぼこすけに、でこりんは「どこでもマド」を発明し、フリースペースを紹介します。自宅で元気に過ごせるようになってきたら、自由度高く学んだり遊んだりすることができるフリースペースやフリースクール、そのほかにも習い事なども含め、**本人が無理なく過ごせる場所に行ってみる**のも一つの選択肢です。

フリースペースは楽しそうでしたが、まだぼこすけには家を出るハードルが高いようです。その場合は、オンラインやメタバース空間で他者と関わったり学んだりする方法もあります。

今回番組で紹介された事例のほかにも、学校に直接行くことはつらいけれど、授業にはオンラインで参加したい、という子もいます。また、週5日学校に通うと疲れすぎてしまうため、週3日は学校に行き、週2日はフリースクールに通っている、という子もいます。さらに、毎日給食までは学校で学ぶ、という子もいます。

「学校に行かない」と言っても、その状況は子どもによって全く異なります。周りにいる大人は、まずは子どもの心が元気になることをサポートすること、その上で、その子自身がどうしていきたいか、を一緒に考えていくことが大切です。

ぼこすけは、最終的に「また学校に行きたい」と言います。その背景は、様々な場所に行ったら、だんだん学校に行きたくなくなってきたこと、また、学校でぼこすけがつらいと感じていることについてサポートをする、という先生からの連絡があったことでした。一度別の場に行って、また学校に行きたくなくなったら戻るのも、一つの手です。今回は先生から「サポートする」と連絡がありましたが、心が元気になってきたら、学校に対して「こういうサポートがあるとよい」と提案してみるのもよいでしょう。